

医療法人円会 瀬口脳神経外科病院



病院理念

1. 私たちは、地域の皆様から信頼される病院づくりに勤めます。
2. 私たちは、患者様のための心のこもった医療サービスを提供します。
3. 私たちは、常に脳・脊髄疾患の専門病院として
高度且つ最新の医療を提供します。

病院開設：昭和53年6月

診療科：脳神経外科、脳神経内科、循環器内科、リハビリテーション科

病床数：66床

手術件数：102件

職員数：112名



飯田下伊那 医療職体験会

開催日程：令和7年8月8日 9時～12時30分

持ち物：筆記用具、上履き、水筒 8：45までに1階受付前までお越しください

看護科

白衣試着、食事や車いす介助などの生活援助、血圧・脈拍の測定などを体験

放射線科

検査の見学・体験

医療相談室

相談業務体験

薬剤科

調剤体験・服薬指導見学

臨床検査科

エコー検査の見学・体験

リハビリテーション科

リハビリテーションの見学・体験

医療事務

医療事務全般業務

看護科



将来看護師を目指したい！ 看護師の仕事を知りたい！

そんな皆さん、看護を体感し将来の自分をイメージしてみませんか？

看護師と一緒に患者さんとのコミュニケーション、食事や入浴、車いす介助など生活の援助、血圧・脈拍の測定などを体験！！

そして、現場で働く看護師の生の声を聞き、質問や相談など今後の進路選択の参考に参加してみてもいいですか？

臨床検査科

検査室では病気の原因を調べるため、又、治療の効果を確認するために様々な検査を行っています。大きく分けると、体液(血液・髄液・尿・便)を対象とした検体検査と、エコー検査・心電図検査・脳波検査といった患者さんの臓器を対象とした生体機能検査に分けられます。検査業務は臨床検査技師が担当しています。どの検査も正確に結果を出すよう心がけています。



放射線科

放射線を使って人体のあらゆる部位を画像化する職業です。

CT MRI 血管撮影装置 単純撮影装置などを駆使して診断に役立つ画像情報を提供します。また、コンピューターを使って画像再構成を行いより診断に生かせる画像を作成します。



薬剤科

薬剤師は、医薬品全般について、幅広い知識を持つ「薬」の専門家です。

処方せんに基づく調剤や患者への服薬説明を行うほか、医療用医薬品から一般用医薬品まで、すべての薬に対して相談にのっています。

薬剤師は、大学の薬学部を卒業し、薬剤師国家試験に合格して与えられる資格です。薬学部では、有機化学や無機化学など化合物に関する基礎的知識をはじめ、体内で薬がどのように作用するかといった知識、さらには病気やその治療についても学んでいます。

薬局や病院で調剤に携わるだけでなく、学校での環境衛生管理や、医薬品の研究開発や製造に関与している薬剤師もいます。



医療事務

医療事務は、病院や診療所などの医療機関で働く事務職です。医療事務の仕事は、患者さんの受付や会計、診療報酬請求など、医療機関の円滑な運営に欠かせないものです。専門性が高い職業ですが、無資格・未経験から始められる仕事です。

医療事務の仕事内容は、大きく分けて以下の4つに分類されます。

・受付業務 ・会計業務 ・レセプト業務 ・クラーク業務

医療事務の仕事は、患者さんや医療従事者と接する機会が多く、コミュニケーション能力やマナーが求められます。また、医療保険制度や診療報酬請求に関する知識も必要です。



医療相談室（医療ソーシャルワーカー）

病気で入院することで、お金の問題・先立つ不安などの精神的な問題・生活環境などの問題と、様々な問題が同時に発生します。

医療ソーシャルワーカー(MSW)は、不安や問題を患者さんや家族と共有し、医療スタッフとの連携を図りながら、医療の提供がスムーズに行えるよう、相談調整を行います。必要に応じて、福祉施設や役場との連絡を行い、制度の活用をはじめとした問題に対する解決策を、患者様・ご家族と一緒に考えていきます。



リハビリテーション科

理学療法

脳の血管がつまったり、破裂して出血する病気（脳卒中）により、手足を動かす神経が傷つき、運動麻痺という症状が出現します。運動麻痺のため、足が動かなくなって、上手に歩くことができなくなります。

それを補うため『下肢装具』という治療用具を使って、練習を進めていきます。職場体験では実際に装具を着用して歩いてみたり、模擬患者の介助歩行を通して理学療法を体験してみましょう。



作業療法

食事や排泄、家事・仕事など、普段の日常生活に関わる活動の事を「作業」といい、ある日病気によって「作業」が難しくなった方に対して評価をおこない、治療手段を考えて練習する専門職のことです。

当院では、①日常生活に必要な注意力・記憶力など「頭」に関する検査の実施
②麻痺などにより思うように動かなくなった腕や手を回復させるための練習
③食事や排泄など日常生活動作の練習。または補助的な道具を使った方法（手すり・自助具など）のアドバイスをしています。実際に患者さんの気持ちになって①～③の作業療法を体験してみませんか？



言語聴覚療法

「話す」「聞く」「食べる」こと、誰でも自然にしていることが病気やケガなどで突然不自由になる事があります。言語聴覚士は、このように、ことばによるコミュニケーションや飲み込みに問題ある方に対してコミュニケーション方法を考えたり、飲み込みやすくなるように練習をしたりします。私たちは、毎日当たり前のように、食べたり飲んだりしていますが、うまく飲み込めなくなったらどうしたらいいのでしょうか？

職場体験では①飲み込みの検査のひとつ、聴診器で喉の音を聞く ②飲み込みやすく工夫された“嚥下調整食”の試食などの体験をご用意しています。

